

令和8年3月11日

目黒区教育委員会教育長 宛て

目黒区立目黒南中学校
校長 金子 弘樹

令和7年度 目黒区立目黒南中学校 学校評価報告書

1 学校評価委員会の実施内容

- (1) 第1回実施日時 令和7年 5月20日(火) 午後2時00分～午後3時30分
 - ・授業観察(6校時)
 - ・学校経営方針説明
 - ・協議(学校経営方針、教育活動など)
- (2) 第2回実施日時 令和7年11月 4日(火) 午後2時00分～午後3時30分
 - ・授業観察(6校時)
 - ・協議(授業の感想・意見、学校の現状・行事報告、学校評価依頼)
- (2) 第3回実施日時 令和8年 2月10日(火) 午後2時00分～午後3時30分
 - ・校内作品展見学
 - ・学校評価結果の報告
 - ・協議(学校評価結果の質問、意見交換)

2 参加者

民生児童委員	吉澤 真由美
元PTA役員	印南 敦子
元PTA役員	二見 あかね
原町住区住民会議会長	稲田 芳和
向原住区青少年委員	岩切 美智子

3 評価の結果等

※四者…児童・生徒、保護者、地域の方、教職員のこと。

評価項目	◎(成果)、●(課題)、 ◎(成果と課題の両者を含む)	次年度の教育活動の改善点	学校評価委員会での意見 (学校運営協議会での意見)
I 学校全体について ・学校の雰囲気、学習環境、教職員の態度などについて、家庭・地域との連携、地域人材の活用などについて	◎充実度における生徒の肯定的評価が92% 満足度における保護者の肯定的評価が85%で概ね良好である。 ◎一人ひとりの生徒を大切にす寄り添った指導や主体性を引き出す指導の工夫・取組の成果である。	・常に教育環境の整備に努め、生徒主体に教育活動を推進していく。 ・学級づくりに重点を置き、生徒一人ひとりに謙虚に温かく接する教職員の雰囲気づくりに努める。	・更に教育相談体制の充実を図り、個別最適な支援を推進する。 ・教職員の日常的な会話を増やし情報共有を図る。 ・45分授業実施における更なる工夫と改善に努める。 ・学校施設の老朽化に早期対応していく。

<p>II 教育目標について</p> <p>・教育目標、時程、教育内容全体について</p>	<p>◎様々な機会に教育目標など説明できる機会と教職員が多くなってきたことで、生徒、保護者の理解が進んだ。</p> <p>◎保護者の教育活動等における満足度の肯定的評価が86%と高い。常に生徒主体を重点に組織的に取り組めた成果である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や日常の生徒会活動等において生徒主体の自治的活動を更に推進する。 ・統合新校初年度の反省を生かし、更に教育目標が浸透するよう教職員全員で合意形成を図り、目標達成に向けて組織的計画的に実践していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究開発指定校2年目として取組と成果をまとめる校内研究を推進する。 ・体育大会や文化発表会の更なる工夫と改善に向けて早期に企画調整を図る。 ・保護者や地域に教育活動の様子が分かるよう工夫ある広報活動に努める。
<p>III 心の教育について</p> <p>・道徳科の授業の充実や児童・生徒の道徳的実践力の向上に向けた取組について</p>	<p>◎生徒・保護者の肯定的評価が高く良好である。資料や学習用情報端末を工夫して活用し、考える道徳科の授業を計画的に実践できた成果である。</p> <p>●生徒の現状を踏まえテーマの設定や年間指導計画を作成する。学年の教員全員が道徳科の授業を担当して工夫ある授業を展開していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全教員で道徳科の授業改善に努め、学年教員がローテーションして授業を担当する。 ・生命（いのち）の安全教育の具体的な実践を通じて、人権教育の視点で健全育成に努める。 ・地域活動やボランティア活動に積極的に参加させ、道徳的実践力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科横断的に全ての教育活動において「命を大切にし、思いやりの心を持って生活する」視点で生徒指導に努める。 ・地域のボランティア活動に参加する機会を奨励することで心の教育を推進する。
<p>IV 学習指導等について</p> <p>・学力の定着・向上に向けた授業の改善・充実、少人数指導、主体的に学習に取り組む態度等の取組について</p> <p>・職場体験等体験活動、自然宿泊体験教室、キャリア教育等の充実について</p>	<p>◎タブレットの活用における生徒の肯定的評価が93%でとても良好といえる。工夫あるICT機器の活用が浸透してきた。</p> <p>◎1学年の交流活動として合同実施した自然宿泊体験教室は、概ね全員がスキー実習は楽しいと感じることができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修会のテーマに45分授業における「生み出した時間の活用」を重点項目のひとつとする。 ・学習用情報端末の適正管理と利活用を推進する。 ・ICT機器を効果的に活用し、教科教室の環境整備を行い、授業改善の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習用端末を活用して、教え合いや助け合いの場面が多く見られ成果であった。 ・習熟度別少人数の授業は、更に基礎学力の定着を図る。 ・学習用端末を活用した学習は評価できる。しかし情報量が多いので自己選択方法の改善に努める。

<p>V 体育・健康教育について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力向上、健康の促進に向けた取組について 	<p>◎連合体育大会では都の「笑顔と学び」事業により陸上アスリートによる指導を活用して飛躍的な成果を残すことができた。</p> <p>◎体育大会は、教職員が結束し生徒主体で企画運営することで生徒の体力や達成感を高められた。</p> <p>●10月と1月はインフルエンザ感染者が確認されたが大きな流行は防止できた。さらに運動と食育に関連づけて健康の増進を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・男女共習による保健体育の授業において体力向上に繋がる授業の推進を図る。 ・目黒区立中学校連合体育大会における代表選手の選出は、全校体制で生徒に呼び掛け、全種目で出場実現を目指す。 ・保健給食委員会を中心として、全校体制で感染症拡大防止や健康管理等の活動を推進していく。 ・給食運営協議会の意見を生かし、更に食育を推進していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育大会に取り組む姿勢が頼もしい。リーダーとなる生徒を中心に全校生徒が団結して取り組めた。 ・体育的行事においては特に熱中症対策を講じるよう努める。 ・多様な生徒に配慮した安全・安心な体育的行事の実施に努める。 ・生徒の居場所・遊び場所等の環境整備に視点を置き教育活動を推進していく。
<p>VI 特別活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の充実、異学年交流活動、クラブ・部活動の充実などについて 	<p>◎「学校行事や生徒会活動、部活動では充実感を得ていますか」で生徒肯定的評価の割合が90%と高く良好である。外部指導員も含め、全教職員で組織的・計画的に指導を継続できた成果である。</p> <p>●部活動活性化について保護者の期待が大きいと推察できる。目的をもって欠席なく自分の決めた部活動に取り組める環境づくりが課題である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学級規模拡大に応じた学校行事の企画運営、安全面に配慮した取組を推進していく。 ・特色ある教育活動として部活動合宿を位置づけ、部活動の運営取組を多面的に整理し効果的实施に努める。 ・全校体制で生徒主体に実施する学校行事や生徒会活動、部活動の推進を目指す。 ・「学級経営」における教員の指導力向上に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動外部指導員の効果的な活用を推進する。 ・生徒が部活動の取組に熱中できる環境づくりに努める。 ・生徒の諸活動における安全・健康管理について、全教職員で取り組んでいく。 ・部活動指導による3年間の生徒の変容が大きく成果であると感じる。 ・i - c h e c kの結果分析と共有を行い学級経営に生かす。

<p>Ⅶ 学校生活全般について</p> <p>＜生活指導＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活規律の徹底、いじめや不登校の現状と対応、教員の関わり方、特別支援教育への取組などについて 	<ul style="list-style-type: none"> ◎四者の肯定的評価が高く概ね良好と言える。生徒が自主的に朝読書に取り組む習慣が定着したことが成果である。 ◎全教職員で協力して生徒指導に係わり生活規律の確立を推進することができた。 ●特別支援教育は、個別指導計画に基づき専門員や支援員等と協働して組織的・計画的に指導できている。突如発生する事案への緊急の対応も関係機関と連携し柔軟に取り組むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> いじめ問題への対策として、毎週実施する「校内いじめ対策委員会」を中核に全校体制で取り組む。 生徒の成長を支える視点を持ち、礼儀や感謝、授業等を大切にする心を育てる。 校則や身だしなみについては、生徒や保護者と連携しながら見直しを継続していく。 「学校生活の心得」について、更に共通理解・共通実践を図り、生徒に寄り添った生徒理解に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業参観から生徒が落ち着いて意欲的に授業に取り組んでいる様子がわかる。 多様な対応が求められる特別支援教育は成果が上がるよう粘り強く指導してほしい。 学力の個人差に応じた個別最適な学びの手立てに努める。 授業者における特別に支援を要する生徒への机間巡視を行い合理的な配慮も含めて個別対応に努める。
<p>＜防災教育・安全指導＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 事故や災害に関する安全教育や情報モラル教育の充実、安全管理などについて 	<ul style="list-style-type: none"> ◎防災教育・安全教育について、生徒の肯定的評価が95.7%で保護者と共にとても高く良好と言える。全教職員で日常より災害に対する危機管理意識を高く保ちながら、生徒指導を推進できた成果である。 ●防犯・事故防止の保護者の肯定的評価が65%と生徒や教職員よりも30%低く評価の差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 安全指導や避難訓練は、様々な場面や状況を設定し、確実に自助・共助が行えるように訓練を実施する。 個人情報への注意喚起徹底を図り情報モラルの育成に努める。 「SOS の出し方」指導に更なる工夫改善を図り、犯罪・事故の未然防止に努める。 保護者、地域への防災教育・事故防止の取組と情報発信する機会を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練は教職員のための訓練であること共有して実施する。 地域の防災訓練などの行事に今後も積極的に参加を促す。 地域の力を活用して連携した防災教育を行うことで、防災意識を高めていく。 消化器の利用方法がわからない生徒も多い。自助・共助・公助の視点から避難訓練を実施する。

<p><幼・保・小・中連携></p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校や同じ中学校区の小学校との連携について ・近隣の幼稚園・保育園との連携について 	<p>◎関係小学校の希望児童を募り、夏休みに4日間の部活動体験を実施できたこと、関係小学校の5年生全員が来校し、いじめ問題を考える目黒子ども会議を開催できたことが成果である。</p> <p>●今年度の反省を生かし、9年間を見通した育成プランの共有化を図り、実績を積み上げていくことが課題である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年間3回実施の小中連携活の会は、児童生徒の情報共有や意見交換、互いの研修の機会として、更に効果的な交流を継続する。 ・いじめ問題を考えるめぐろ子ども会議は碑小学校において実施する計画である。また、5年生全員と中学校2年生が参加して実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第二碑文谷保育園の運動会会場として本校の体育館を提供した。 ・月光原小学校の避難訓練の避難場所として本校の校庭を提供した。 ・小中共通の研究内容である生み出した時間の活用「自己選択学習の時間」について引き続き研修交流を図る。
<p>VIII 情報の発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の情報発信の充実について 	<p>◎情報発信について、地域の肯定的評価が96%でとても高い。学校ホームページでの配信や学校だより記載内容の工夫、定期的な住区会議等へ参加できた成果である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動を周知、理解してもらうために情報の発信方法を工夫する。 ・学校家庭連絡システムや学習用情報端末の活用方法について、適宜必要に応じて改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域には、学校だよりを回覧板、掲示板上で発信しているが、生徒の授業風景や写真などを掲載して見やすい工夫に努める。 ・学校の情報については、教員の負担とならないように、更に方策を考えて保護者と地域に発信・浸透させていく。
<p>IX 教員の人材育成について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常の職務をとおして専門性と協働性の育成、教育公務員の自覚について 	<p>◎教職員の肯定的評価が100%で良好と言える。学年主任、分掌主任を中心に風通しよい組織と教員の個人研修を奨励してきた成果である。更に服務厳正に努め、個々の教職員の特性が伸張できる環境づくりに努めていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修会組織の活性化を図り指導力及び専門性の向上に努める。 ・職層ごとにOJTの役割と目標を明確化して計画的に人材育成を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員が組織的に動くことは、学校として大切である。 ・教員の指導力向上に向けて更に組織的・計画的にOJTを推進していく。

<p>X 教員の働き方改革について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校務支援システムの活用、「チーム学校」を意識した業務分担等、組織的な業務の効率化・最適化について 	<ul style="list-style-type: none"> ◎会議の議題精査と時間管理を概ね達成できた。 ◎教員の勤務外在校時間を 20%削減できた。 ●相談しやすい、休暇を取得しやすい雰囲気づくり、心理的安心を保てる職場環境づくりに取り組むことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校務の優先順位や効率化を常に教職員が意識する環境整備を行う。 ・教職員の長時間勤務減少を目指し、ライフワークバランスの改善に努める。 ・部活動における生徒指導や生徒引率等は、複数顧問を配置し、分担しながら取り組んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員のメンタルヘルスに関して、常にアンテナをはり、気軽に助けを求められるよう配慮することが大切です。 ・校務の分散化を考慮し、一人の教職員が身体的疲労感とならないよう努める。
<p>XI 服務事故の防止について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・服務事故防止に向けた取組などについて 	<ul style="list-style-type: none"> ◎全員の教職員が肯定的な評価であった。計画的な服務事故防止研修や定期的な人権感覚チェックシートの実施など意識的な取組が成果に繋がった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員同士が服務厳正を念頭に職務に全うできる環境づくりに努める。 ・個人情報の扱い管理について、日常の声掛けと点検作業に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の管理責任者を明確にし、各担当で定期的に管理・点検の確実な取組に努める。